

バマンサタ、オガラバナ、ヒメハナ

レ等があり、小さいお花島である。ブナは優小となり、アオモリトドマツはこゝにもある。その他シロバナシヤクナゲ、ミヤマホツツジ、ウスギヨウラク、ムラサキヤシオツツジ、サワフタギ、ハリギリ等も見られた。

こゝからいよいよ頂上へかゝるのであるが、樹木はいよいよ低く、ダケカンバ、ヤハズハンノキ、オガラバナ、ミネカエデ、ミズギが主木をなし、その下にミヤマホツツジ、ヒメハナヒリノキ、サワフタギがある。そして木本のつきる所に頂上迄続く御花島が現れ、ヤマハハコ、ミヤマキンボウゲ、ミヤマコウゾリナ、ヒトツバヨモギ、ヤマヅキシヨウマ、クロバナヒギオコシ、ヨツバヒヨドリ、シナノオトギリ、イブキゼリ、タチヤマスゲ、ミヤマニガイチゴ、ゴヨウイチゴ、シモツケソウ、ノアザミ、クルマバハグマ、マイズルソウ、ミヤマニガナ、ゴゼンタチバナ、イタドリ、ハクサンチドリ、オオバギギシ、エゾリンドウ、クルマユリ、オオチゴユリ、ミヤマナルコユリ、コバイケイソウ、ヤゲルマソウ、エンレイソウ、ツマトリソウ、ソクバネソウ、エゾノヨツバムグラ、ササユリ、イワナシ、ゴゼンタチバナ、ヒメイチゲ、アカモノ、シロモノ、イワカガミ、ツルリンドウ、ネバリノギラン、タカネコウボウ、ヤマヌカボ、ヒゲノガリヤス、シラネウラボ、ミヤマワラビ等が見られた。(寒蟬義一記)

郷土研究紹介

福井県産最古のハスの化石について

(北陸の植物学三巻第一号 1954年1月)

金沢大学理学部地質学教室 松尾秀郎

今立郡上池田村西尾にある石炭を採行した田杭の入り中から発見した、ハスの化石について記載してある。従来我が国で発見されたハス属の化石は古第三紀より古いものはないが、この化石は白堊系上部に属するもので、之は日本のみならず東亞でも最古のものである。従来ハス属の原産地については、牧野富太郎博士の印度説に對して、大賀一郎博士は印度のみならず東亞の各地をも含めて多々説を称えて居る。この化石の存在によつて、日本もハス属の原産地であると云う説に有力な証拠を与えるものとなる。